

海老名市公共下水道事業経営戦略(令和6年度～15年度) (概要版)

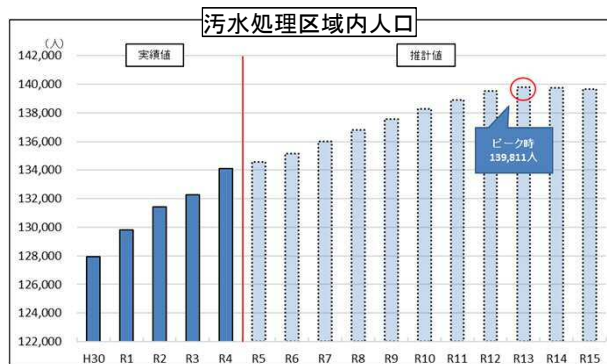
経営戦略改定の趣旨

- 中長期的な視点で下水道事業が将来にわたり安定した経営が持続できるよう「海老名市公共下水道事業経営戦略」を令和元年11月に策定しました。
- その後、社会情勢が大きく変化し、本市も令和4年度に使用料改定を行うなど、策定時とは異なる経営状況となっています。
- 上記を踏まえ5年毎の中間時の見直しとして今回新たに「令和6年度から令和15年度まで」の10年間を計画期間と設定し、経営戦略の改定を行います。

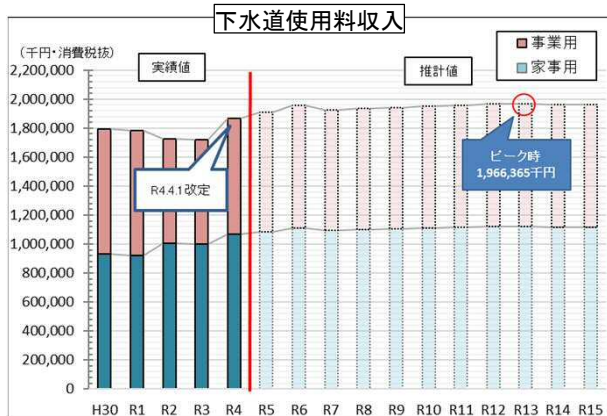
前経営戦略における経営面にかかる実績

目標を達成した項目	設定目標		実績			
			R1	R2	R3	R4
収益性の確保(経常収支比率)	(毎年度) 100%以上	○	109.7%	110.0%	110.3%	108.7%
経費回収率の維持	(毎年度) 100%以上	○	114.1%	114.9%	115.5%	111.3%
企業債残高の減少	(R4年度末) 126.4億円	○	(R4年度末) 115.6億円			
未達成の項目	設定目標		実績			
運転資金の確保(流動比率)	(R4年度末) 65.0%	×	63.3%	66.1%	63.1%	53.6%

経営をとりまく将来推計



本市での開発による人口増加及び污水管きよの整備に伴う処理区域面積の増加により、処理区域内人口は増加傾向にあり、令和13年度にピークを迎え、その後は人口減少に伴い微減となる見込みです。



営業収益の根幹である下水道使用料は令和4年4月1日に約14年ぶりに平均10%の改定を行いました。今後の見通しとしては家事用排水、事業用排水ともに人口増加に伴い増加を見込んでいます。下水道使用料全体としては、令和4年度の約18.6億円から令和13年度の約19.7億円まで増加する見込みです。

経営目標

	目的	指標名	目標	R4年度実績
継続性	黒字経営	純利益	(毎年度) 1億円以上	2.45億円
	運転資金の確保	流動比率	(R15年度末) 100.0%以上	53.6%
		年度末現金残高	(R15年度末) 10億円以上	3.46億円
効率性	収益性の確保	経常収支比率	(毎年度) 100.0%以上	108.7%
	経費回収率の維持	経費回収率	(毎年度) 100.0%以上	111.3%
健全性	企業債発行の適正管理	企業債残高	(R15年度末) 115億円以下	115.6億円

投資・財政計画 (主な投資)

1 水害対策の推進(雨水管きよ等の整備)

管理指標	前期 (R6-R10)	後期 (R11-R15)	実績(参考)
都市浸水対策達成率の向上	44.8% (R10年度末)	45.8% (R15年度末)	43.6% (R4年度末)
投資額	300,000千円/年 (投資限度額)	300,000千円/年 (投資限度額)	178,679千円 (R4実績額)

2 地震対策の推進(管きよ等の耐震化(可とう性継手の設置等))

管理指標	前期 (R6-R10)	後期 (R11-R15)	実績(参考)
可とう性継手の設置等	130箇所 (R10年度末)	152箇所 (R15年度末)	156箇所 (H29～R4累計)
投資額	20,000千円/年 (見込額)	20,000千円/年 (見込額)	17,690千円 (R4実績額)

3 施設の適切な改築・修繕・維持 (ストックマネジメント計画に基づいた施設の点検・調査、改築・修繕)

管理指標	前期 (R6-R10)	後期 (R11-R15)	実績(参考)
ストックマネジメント計画に基づいた施設の点検・調査[汚水]	16km/年	16km/年	約60km (H30～R4累計)
投資額	40,000千円/年 (見込額)	40,000千円/年 (見込額)	49,941千円 (R4実績額)
ストックマネジメント計画に基づいた施設の改築・修繕[汚水]	270m/年	270m/年	約50m (R4実績)
投資額	200,000千円/年 (投資限度額)	200,000千円/年 (投資限度額)	15,400千円 (R4実績額)

4 生活排水の適正処理(下水道未普及地域の污水管きよ等整備)

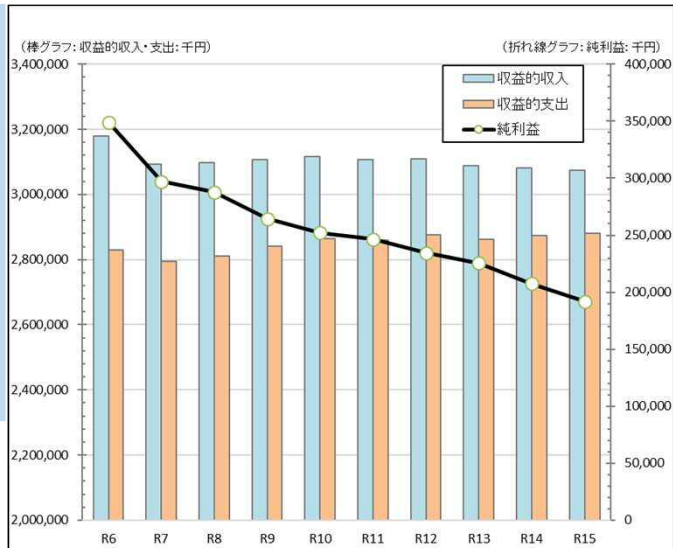
管理指標	前期 (R6-R10)	後期 (R11-R15)	実績(参考)
下水道処理人口普及率の向上	97.0% (R10年度末)	97.5% (R15年度末)	96.4% (R4年度末)
投資額	150,000千円/年 (投資限度額)	150,000千円/年 (投資限度額)	243,035千円 (R4実績額)

投資・財政計画における収益的・資本的収支の見通し

(1) 収益的収支

計画期間内において、収入面は使用料収入の微増は見込んでいますが概ね横ばい、支出面は維持管理費の増大や物価上昇などを見込み、増加の見通しです。

収入と支出の差である純利益は、令和6年度の約3.4億円から令和15年度には約1.9億円まで減少する見込みですが、計画期間内においては毎年度、黒字経営が維持できる見通しです。



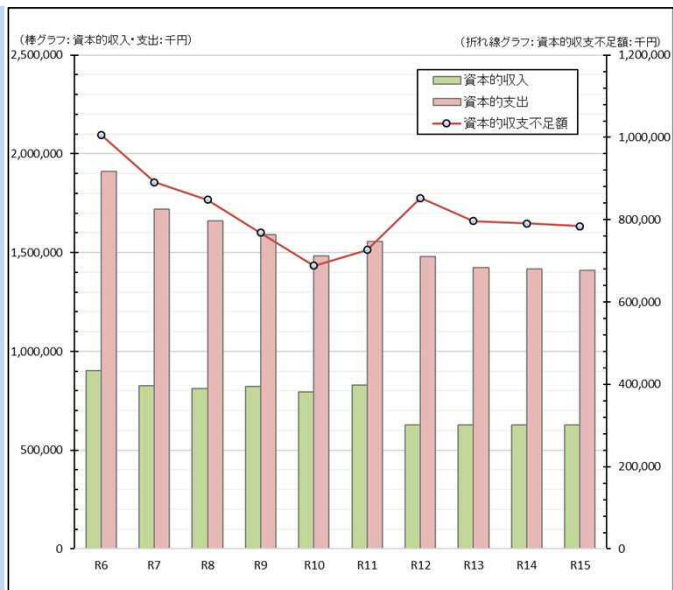
収益的収支は、下水道施設の維持管理等を行うための経費と下水道使用料等の財源で構成されています。

(2) 資本的収支

計画期間内において、収入面は污水管渠整備事業・ストックマネジメント事業への国庫補助金が縮減していくこと、企業債発行抑制に努めることを見込み、減少となる見通しです。

支出面も過去に借り入れた企業債の償還がピークアウトを迎えることにより減少していく見通しです。

収入と支出の差である資本的収支不足額は、令和6年度の約10億円から令和11年度の約7億円まで減少し、令和12年度の企業債発行抑制開始により一時的に増加しますが、その後は減少傾向となります。



資本的収支は、新たな下水道施設の整備や既存施設の更新を行うための経費とその財源で構成されています。制度の構造上、支出が収入を上回ることになり、この収支不足額を収益収支で生ずる純利益等の内部留保資金で補っています。

事後検証・見直し等について

○ 経営戦略の事後検証（モニタリング）について

経営戦略の事後検証（モニタリング）として毎年度、投資・財政計画の推計値と決算に基づく実績値の比較等による分析・検証を行うこと、経営目標及び投資目標の達成状況を把握することで進捗管理を行います。

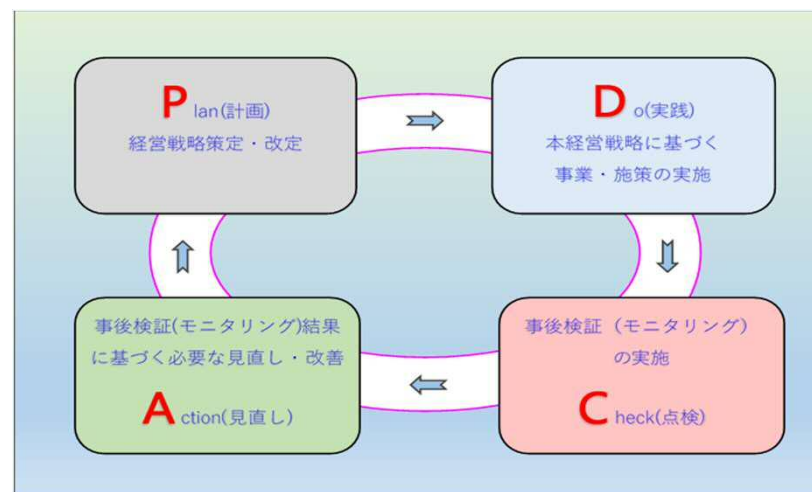
また、毎年度のモニタリング結果については、[海老名市下水道運営審議会で報告する](#)とともに[市ホームページにて公表](#)します。

○ 経営戦略の見直し・改定（ローリング）について

本経営戦略は令和6年度から令和15年度までの10年間を計画期間としています。

この期間中、毎年度の事後検証（モニタリング）結果を踏まえ、本経営戦略の実効性を高めるため、検証結果の達成状況に応じて継続的に改善する手法であるPDCAサイクル【Plan（計画）→Do（実施）→Check（点検）→Action（改善）】に基づき本経営戦略の見直しを計画期間中間時である令和10年度に行います。

なお、社会情勢等に変化があった場合には、随時、本経営戦略の見直しを行います。



○ 経営戦略の事後検証・見直し、使用料水準の検証スケジュール

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
事後検証（モニタリング）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
経営戦略の見直し・改定（ローリング）	●				●					●
投資財政計画の見直し・改定	●				●					●
使用料水準の検証	●				●					●